

ブック村だより

- 心に残った本 坂口 正彦 (1)
- ぶつくす・なう (4)
- 『宇宙軍士官学校—^{スカウト}前哨—』 谷岡 一郎
- 『西方の音』 塩田 眞典
- 『粗にして野だが卑ではない—石田禮助の生涯』 下山 晃
- 『詭弁論理学』 河辺 純
- 本学コレクション紹介 (32)
- ルソー『政治経済論』⑦ 森岡 邦泰 (6)
- 図書館イベント案内／貸出ランキング (7)
- 図書館インフォメーション／開館カレンダー (8)

心に残った本

経済学部 経済学科 専任講師 坂口 正彦

小学生の頃、あおむら純（児玉幸多監修）『小学館版学習まんが 少年少女日本の歴史』（小学館、1981年、画像は1998年発行の増補改訂版）のとりこになった。数ある漫画日本史のなかでも、小学館版の良いところは、よけいな演出がない点にある。歴史上の出来事を美談にするわけではないし、権力者のすべてを「男前」に描くわけでもない。たとえば、「第2巻 飛鳥の朝廷」に登場する蘇我馬子の見た目は、



「ころころしたおじさん」であった。そんな「ころころしたおじさん」が1つ1つの事件に翻弄されつつ権力を握っていく様子が泥臭くて面白かった。小学3・4年生であった私は蘇我馬子ファンになり、親に頼んで馬子の墓参り（石舞台古墳）をした。次にファンになったのが、鼻と口の間隔が少し長く描かれた足利義政であった…。

多感な時期を終え、落ち着きはじめた高校3年生。歴史少年であったことを覚えていたのか、父が2冊の本を私に与えた。1冊は司馬遼太郎『坂の上の雲』第1巻（文春文庫、1978年）、もう1冊は中村政則『歴史のこわさと面白さ』（筑摩書房、1992年）である。『坂の上の雲』は、著名な軍人や作家が成長していく模様を日本の近代化と重ね

て描いた作品である。

『歴史のこわさと面白さ』は、近代日本の経済構造をふまえたうえで、名もなき人びとの歴史を記したものである。とりわけ私は、『歴史のこわさと面白さ』にある次の文章に魅かれた。



私はいっぼうで社会や資本主義経済の仕組みを叙述しながら、他方で、労働者や農民がその社会や経済の仕組みにいかにか翻弄されながら、生きていかざるをえなかったか、あるいは彼らがそれにかに立ち向かっていったかを事実をもって描くことに全力を集中した。たんなる民衆史でもなければ、構造史でもない、いわば、両者がきりむすび、せめぎあう、緊張にみちたその拮抗の姿を解明することに全精力を集中した（41～42ページ）。

当時の私は、社会や経済の「構造」をつかまえることが、学問としての歴史学であるのかと納得し、大学では歴史学を専攻しようと考えた。

浪人時代。現代文の問題を解くうちに「評論文をもっと読みたい」という気持ちが抑えられなくなった。その時に探し当てたのが「知の技法」シリーズである。このシリーズは小林康夫・船曳建夫編著『知の技法』（東京大学出版会、1994年）、同『知の論理』（同、1995年）、同『知のモラル』（同、1996年）、同『新・知の技法』（同、1998年）などによって構成される。学問とは「自我の立場に立って考えるのではなく、普遍性の立場に立って考える」ことであるとのスタンスのもと（前掲小林・船曳編著『知の技法』4ページ）、大学生に向けて、さまざまな学問のエッセンスを示したものである。

私がつくに興味を抱いたのは、以下の論文である。1つは野矢茂樹「論理を行為する」（前掲小林・船曳編著『知の論理』）であり、難しい表現を含んでいるが、次の考え方に感銘を受けた。

新しい論理を生み出すためには、すでにある論理を疑うことから始めなければなりません。しかし、「疑う」という論理的な行為もそれが極限まで推し進められれば、自己解体的なものとなります。〔それゆえ…哲学者ウイトゲンシュタインいわく〕われわれが問いを立て疑いを発するには、ある種の命題が疑いを免れ、いわば問いや疑いを動かす蝶番の役割をしていなければならない（17、24ページ）。

つまり、何かを疑うためには、便宜的に別の何かを疑ってはならないという思考の方法が示されている。

もう1つは内田隆三「ペリフェリーの社会学」（前掲小林・船曳編著『新・知の技法』）であり、ニュータウンを次のように捉えたものである。

この緑多い丘陵は凡庸な外見にもかかわらず、快適性の政治学によって「像」の次元に形成された途方もない欲望のプレートであり、その深層に「共通の場」の不在を隠しています（56ページ）。

「疑いを動かす蝶番」、「欲望のプレート」…こんなふうに物事を捉えるのが学問なのかと感動し、哲学・社会学の本を読みはじめた。なかでも熱中したのが、友枝敏雄・竹沢尚一郎・正村俊之・坂本佳鶴恵『社会学のエッセンス』（有斐閣、1996年）である。この本はドラマトルギー、アノミー、予言の自己成就といった聞いたことのない、わくわくする概念で社会を切り取っていた。こうした概念を用いて、大学受験小論文の問題を解いていった。

哲学・社会学を専攻しようとするも大学受験に失敗。当初の予定どおり歴史学科に入学した（1999年）。しかし、歴史学に興味を持てなかった。私自身が、今よりもっと未熟であったため、歴史学の専門論文を読んでも、「〇年△月×日にAとBが□□を行い、翌日にはCが…」といったように事実を並べているだけにみえたのである。私は哲

学・社会学の本を読み続けた。柄谷行人、橋爪大三郎、吉見俊哉などを熱心に読んだ記憶がある。

勢いがついた私は、世界的に著名なフーコー、ウィトゲンシュタイン、デリダなどの作品（日本語訳）を読破することを試みた。しかし、その文体は難解であり、これがスッと頭に入る人が哲学・社会学のプロになるのだろうと考えた。私は潔く哲学・社会学から撤退し、歴史学の勉強を開始した。その際、「知の技法」シリーズに書かれた、次の歴史家たちの言葉が支えになった。

歴史を描くとは「自分自身が打ち壊され、迷い、考え続けるその過程を示すこと」である（小熊英二「神話をこわす知」前掲小林・船曳編著『知のモラル』85ページ）。

歴史学研究は「知のあるひとつの型から別の別の型への移行、あるいは、語るものと語られるものとの間の、位置と姿勢の関係が変わるような、大きな変化」を経験している（加藤陽子「政治史を多角的に見る」義江彰夫・山内昌之・本村凌二編著『歴史の対位法』東京大学出版会、1998年、198ページ）。

歴史学とは、表面的には過去の出来事を羅列しているようにみえても、その背後には抽象的、原理的な思考が存在するのだと確信した。社会や経済の「構造」をつかまえること（『歴史のこわさ面白さ』）、原理的な問いを大切にすること（「知の技法」シリーズ）。私は以上の点をふまえて、歴史学研究の扉を開けた。「共同体とは何か」、「社会とは何か」という問いを根底に置きつつ、近現代日本の農村共同体（ムラ社会）に関する調査を進めて13年になる。

以上の小さな思い出をふまえて、学生にメッセージを発したい。世の中は複雑である。しかし複雑な現象の奥には、かならず本質というものがある。本質をつかまえば、社会をより深く理解することができる。その力を、読書を含めたさまざまな経験を通して、身につけてもらいたい。



『知の技法』
（東京大学出版会、1994年）
小林康夫・船曳建夫編著

請求記号：002/Ko12
登録番号：0244430



『知の理論』
（東京大学出版会、1995年）
小林康夫・船曳建夫編著

請求記号：002/Ko12
登録番号：0260952



『知のモラル』
（東京大学出版会、1996年）
小林康夫・船曳建夫編著

請求記号：002/Ko12
登録番号：0265492



『新・知の技法』
（東京大学出版会、1998年）
小林康夫・船曳建夫編著

請求記号：002/Ko12
登録番号：0457035



『社会学のエッセンス』
（有斐閣、1996年）
友枝敏雄・竹沢尚一郎・
正村俊之・坂本佳鶴恵〔著〕

請求記号：361/To61
登録番号：0259153

『宇宙軍士官学校—前哨—』

(ハヤカワ文庫JA,
2012.7—2016.11)

鷹見一幸 著

スカウト
〔1～12〕

請求記号：913.6/Ta43
登録番号：0525738
(第1巻)

「前哨」部分だけで12冊、と言われると、引いてしまう人もいるかもしれませんね。しかし、このシリーズを見逃す手はありません。途中段階で、このコーナーで紹介するつもりだったほどおもしろく、読みやすいシリーズです。

設定は近未来の地球。異星人の来訪を受け、来たべき巨大な敵との戦いに備えて、地域全体から選出された若者が宇宙空間の訓練所（これが「士官学校」です）に集められる。そこでなぜ選出されたのか、本人にもまったく不明のごく普通の勤め人の日本人主人公は、いつの間にか仲間うちのリーダーとして頭角を現していくという物語。オースン・スコット・カードの『エンダーのゲーム』

とロバート・A・ハインラインの『宇宙の戦士』とアーサー・C・クラークの『地球幼年期の終わり』を合併させ、日本風にももしろくアレンジしたような感覚といえば分かりやすいですかねえ（かえって分らん?）。異星人も登場するロボットも意表をつくほどカワイイですよ、ホント。

かなり難解な設定の昨今のSFの中で、王道を行きながら工夫されたシリーズ。文章もまことに読み易い。文章の練習にもなりますよ。とにかくまずは騙されたと思って、第1巻を手にしてみよう！おそらく第12巻までは一気でしょうな。

(学長 谷岡 一郎)



『西方の音』

(中公文庫, 2016.3)

五味康祐 著

請求記号：760.4/G62
登録番号：0518185

五味康祐は大衆向けの時代小説、主に剣豪小説の作家として知られているが、音楽に関するエッセイも数多く残している。今より半世紀ほど前（1969年）に出版された書をなぜ取り上げるのか。彼ほど真剣に音楽と対峙する人は今やほぼ居なくなっているから。音楽が広く浅く軽く聴かれる今日、改めて彼の文章に接すると妙に心打たれる。五味もデビュー当初は芥川賞受賞作家、純文学志向の人であった。だが無類の音楽愛好家でもあった彼は、優れた音楽を出来る限り良い音質で聴きたいと切に願う。そのためにはお金、特に高価なオーディオ装置にはお金が、売れる本を書かねば、といった次第で大衆作家へと転身を遂げる。

五味は必死で音楽を求め、音楽との真剣勝負を

究める。だがこのような聴取に耐えうる作品・演奏は、バッハやベートーヴェン等ごく限られており、お眼鏡に適わぬものは独断と偏見かもしれないがバッサリ切り捨てられる。音楽エッセイではあっても、ここには自身の放蕩生活も赤裸々に綴られており私小説的な魅力も読み取れる。五味の心中には荒々しいデモンが巣くっており、それを昇華させるため本能的に芸術音楽を渴望したのであろう。

逆説的な言い方になるが、五味がお金のために大衆向けの文学へと傾斜したおかげで、素晴らしい純文学的音楽エッセイが残されたことになる。クラシック音楽やオーディオになじみがなくても読ませてしまう文学の力。

(図書館長 塩田 眞典)



『粗にして野だが卑ではない — 石田禮助の生涯』

(文春文庫, 1992.6)

城山三郎 著

請求記号：913.6/Sh89
登録番号：0525656

駅の広告看板やホームページのアナウンスですでおなじみの通り、わが大阪商業大学には間もなく、公共学部が創設される。キラリ！と光る町づくりのノウハウやパブリック・サービスの高度な専門知識を身につけた特等級の人材を養成するためである。

この本で紹介されている石田というおじさんは、誰もが乗ったことのあるJRの前身、国鉄の第5代総裁で、新幹線がはじめて開通した時(1964年)に記念式典でテープカットを行なった人物である。不遇の時には晴耕雨読、「公職は奉仕」と固く念じて総裁報酬は返上、責任逃れが当たり前のずるっこエリートとはぜんぜん違って、公共の組織や施設がどうあるべきかをいつもしっかり考え抜こうとしていたらしき人物であります。

強欲・高慢な金融専制が世界中に格差と争いばかりを増やしつづけておる昨今、石田のおっちゃんのような人物像を手がかりに、世界のパブリック・サービスに貢献できるような立派な人材が、新学部からたくさんたくさん、巣立って欲しいものであります。チェイニーなんて、アメリカ副大統領時代に戦争と復興事業でしこたま稼いだあとは、自分の会社をドバイに移して、税金逃れしとるんやもん、ね。世界の36億人分の資産と同等の富を、たった8人が保有してしまっている世界のいびつな現実。45億年もかけて、この貴重な命の奇跡の惑星にそんなけったいな歴史を展開させて良いはず、ないやんか。

鉄路への 夢 その果てにつなぐ 夢 響太郎
(総合経営学部 教授 下山 晃)



『詭弁論理学』

(中公新書, 2017.4)

野崎昭弘 著

請求記号：116/N98
登録番号：0526008

40年ぶりに改訂刷新された一冊。「そんな古臭い、『〇△論理学』? 堅苦しくて無理!」といった、拒絶反応を示されそうなタイトルである。しかし、〈論理学〉の前に付いた〈詭弁〉が気になった方は、是非読んで損?はないかも(とって、ためになるかは断言できない)、というのが本書である。ちなみに、私は詭弁術には長けていない、議論下手の話下手である。

そもそも「詭弁」とは、間違っただけの理屈を正しいと思込ませる論法のこと、要は「こじつけ」のことだ。誰もが、巧みな詭弁術で騙された、いや、納得させられた経験はないだろうか。このもっともらしい論理や常識で相手を欺くのが「詭弁」であるのだが、詭弁のなかでも、理屈抜きのゴリ押しを「強弁」と呼んで、区別して分析されてい

る。まずは、この「強弁術」の章だけでも読んで頂きたい。笑える箇所が多々。

本書によると、強弁術には次の5つの特性があるらしい。①相手の言うことは聞くな。②自分の主張に確信を持って。③逆らうものは悪魔である。④自分のいいたいことは繰り返せ。⑤おどし、泣き、またしゃべりまくること。刑事ドラマのクライマックスで、犯人が「おまえたちにおれの気持ちがあわかってたまるか!」と絶叫するシーン。これは強弁の典型例。これに対する親分肌の刑事の決めゼリフ、「うるせえ。この世の中はな、おめえひとりのためにあるんじゃないやねえんだ。甘ったれるな!!」こちらは、詭弁それとも正論なのか。

(総合経営学部 教授 河辺 純)



ルソー『政治経済論』⑦

自活の道を選んだディドロは、家庭教師をしたり、同郷の修道士を訪ねて修道士になるつもりだといって金を巻き上げたりして、金策に走った。母親は女中に金を届けさせたこともあったが、空腹のあまり部屋で失神し、下宿の主婦に葡萄酒に浸したパンをもらって意識を取り戻したこともあった。しかしこの頃、コーヒー店で、ルソーと知り合い、仲間たちと議論にふけた。また、ハーバーマスがいうように、当時はコーヒーハウスなどで世論が形成され始めた時代でもあった。

30歳の時、下着販売をしていた未亡人の娘と結婚した。持参金のないお針子風情の娘との結婚を父親は承諾するはずもなく、^{こころ}餉口を凌ぐために、英語の本の翻訳を行った。それは歴史、自然科学、哲学まで多岐に及ぶ。当時フランスは、ヴォルテールも『哲学書簡』を出すなど、イギリスブームが起こっていて、需要があったし、ディドロ自身イギリスの学芸に魅了されていたからである。

イギリスで、チェンバーズが1728年『百科事典、または工芸・科学総合事典』を出版した。これの仏訳の企画が持ち上がり、ル・ブルトンという出版業者がこれを引き受け、紆余曲折を経て、ダランベールとディドロが編集を担当することになった。ダランベールとディドロは、これを単なる翻訳にとどめるのではなく、当時のフランスの啓蒙思想の知識人をほとんど総動員して、執筆を依頼し、まったく新しい事典を作ることを考えた。それが『百科全書』であり、これは単なる事典の出版ではなく、一つの思想運動だったのである。デ

イドロはこれにより定収入を得たが、出版が始まると、教会側の反撃により出版許可取り消しなどの困難に見舞われた。しかし、1751年に第1巻を出版してから、1772年ついに完結した。これは本巻17巻（各巻900頁以上、1頁当たり平均1200語）、図版11巻に及ぶ。ディドロはルソーに、音楽の項目のほか、この「政治経済論」の執筆を依頼したが、3ヶ月という原稿締め切りを守ったのは、ルソーだけだった。ディドロは33歳から59歳までの26年間を百科全書に費やし、また途中からこの事業に参加しディドロの片腕となったジョクールは、一日13時間から14時間を百科全書のためにあてた。

ディドロはその一方で旺盛な執筆活動も行った。それは、美学上の評論から、小説、演劇、哲学まで多岐に及ぶ。

妻は、結婚前にはあんなに可憐に見えたのに、たちまち口やかましい女に変貌した。夫婦仲はあまりよくなく、愛人も作った。その愛人はディドロと30年来のつきあいの末、ディドロより先に他界した。妻とは子供を全部で4人もうけたが、1人だけが成長し、あとは夭折した。その生き残った娘の結婚持参金を工面するため、晩年、蔵書をロシアのカザリン（エカテリーナ）2世に買い上げてもらった。カザリンはさらにこれらの図書の管理を委託するという名目で年金まで約束してくれた。

今日、エルマン書店から25巻にも及ぶディドロ全集が刊行されていて（1冊当たり3万円くらいするが）、我々はその全貌に触れることができる。

（経済学部 准教授 森岡 邦泰）

学生選書ツアー開催!

学生選書ツアーとは、実際に書店へ行き、図書館に置いてほしい本を自分で選ぶことができるイベントです。

平成29年6月29日(木)、ジュンク堂難波店にて「学生選書ツアー」を開催しました。

今回の学生選書ツアーでは8名の学生が図書館に置いてほしい本を約50冊選んでくれました。

次回の学生選書ツアーは、11月頃を予定しています。

今回参加できなかった方も、ぜひ次回の参加をお待ちしています!



《学生選書リスト》(一部抜粋)

タイトル/著者等	登録番号	請求記号
感情的にならない気持ちの整理術:ハンディ版/和田秀樹 著	0525556	141.6/W12
「甘え」の構造/土居健郎 著 一増補普及版	0525557	146.1/D83
森と山と川でたどるドイツ史/池上俊一 著	0525537	234/I33
ロシアの正しい楽しみ方/「勝手にロシア通信」編集部 著	0525565	293.8/Ka88
僕たちのインターネット史/ばるぼら, さやわか 著	0525551	547.48/B25
芸術の都ロンドン大図鑑:英国文化遺産と建築・インテリア・デザイン/フィリップ・デイヴィース 著	0525568	702.33/D46
疾風ロンド/東野圭吾 著	0525550	913.6/H55
玉子ふわふわ/早川茉莉 編	0525526	914.6/H46
ハリー・ポッターへの旅:イギリス&物語探訪ガイド/MOE編集部, 山内史子 著 一新版	0525564	930.28/R78
たったひとつの冴えたやりかた/ジェイムズ・ティプトリー・ジュニア 著; 浅倉久志 訳	0525528	933/Ti5

上記の選書本は、2階「学生選書コーナー」に並べられます。是非チェックしてみてください。



▲2階「学生選書コーナー」

2017年度 前期 貸出ランキング

〈集計期間:2017/4/1~2017/7/31〉

映画化・ドラマ化、本屋大賞などの話題本がランキングを占める中、学生の授業や資格に必要な資料もランクインしています。

順位	タイトル/著者等	登録番号	請求記号
1	ヴァイキング:海の王とその神話/イヴ・コア 著; 久保実 訳	0235320	238.9/C83
1	蜜蜂と遠雷/恩田陸 著	0523864 (学生専用)	913.6/O65
3	TOEFL ITP TESTリスニング完全攻略:ペーパーテスト団体受験プログラム/宮野智晴, ジョセフ・トルリアス, 木村ゆみ 著	0516749	830.79/Mi79
4	毛皮と皮革の文明史:世界フロンティアと掠奪のシステム/下山晃 著	0378704	648.7/Sh55
4	リバース/湊かなえ 著	0514025	913.6/Mi39
4	マクロ経済学・入門/福田慎一, 照山博司 著	0517030	331/F74
7	野生の思考/クロード・レヴィ=ストロース 著	0099155	389/L57
7	実践理性批判; 人倫の形而上学の基礎づけ/カント 著; 坂部恵, 平田俊博, 伊古田理 訳	0326976	134.2/Ka59
7	たんなる理性の限界内の宗教/カント 著; 北岡武司 訳	0326978	134.2/Ka59
7	祈りの幕が下りる時/東野圭吾 著	0491161	913.6/H55
7	火花/又吉直樹 著	0514921 (学生専用)	913.6/Ma71
7	奇跡の3日片づけ:一生リバウンドしない!/石阪京子 著	0510607	590/I84
7	つくおき:週末まとめて作り置きレシピ/nozomi 著	0518328	596/N98
7	小説 君の名は。/新海誠 著	0519705	913.6/Sh64
7	九十歳。何がめでたい/佐藤愛子 著	0520121	914.6/Sa85

図書館学生スタッフ募集!

図書館では、図書館主催イベントへの参加・運営に協力してくれる学生スタッフを募集します。

〈活動内容〉

- ・学生選書ツアーへの参加
- ・読書会への参加
- ・イベントの企画

本が好きな人はもちろん、図書館の仕事に興味を持った方は、6階カウンターまでぜひお越しください!一緒に図書館を盛り上げましょう!

応募
待ってるよ~!



図書館 インフォメーション INFORMATION

◆ 特設コーナー紹介

2階特設コーナーにて、10月から「極める」をテーマに文学作品30点を展示します。物語の世界を“極め”てみませんか？

◆ 企画展示紹介

図書館では、毎年展示テーマを企画し、計6回の企画展示を実施しています。後期は、下記の展示テーマで実施します。2階フロアで展示をしていますので、ぜひ一度ご覧ください。展示されている本は貸出も可能です。

H29.9/20(水)～11/6(月) 「最高のパフォーマンスのためのメンタルトレーニング」

H29.11/6(月)～12/22(金) 「失敗、失敗、失敗そして成功へ

～それとも失敗せずに成功するか？あなたはどっち？」

H30.1/5(金)～2/28(水) 「おいしさを科学してみました!! おいしさってどうやって作るの？」

◆ 電子書籍紹介【本学学生・教職員対象】

就職活動に関連した電子書籍「マイナビ2019就活BOOK」(マイナビ出版編集部 編) 全17巻を購入しました。

学内からの利用は、図書館ホームページ左サイドの「eBookLibrary」から利用できます。

学外から利用する場合(スマートフォンなどの端末)は、図書館ホームページ左サイドの「デジタルデータ閲覧サービス」からログインしてください。

(ユーザー名・パスワードは、「S-Navil」のログインと同じです)電子書籍もぜひ活用ください。



2017年度 図書館開館カレンダー

10月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

11月						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

12月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24 31	25	26	27	28	29	30

1月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

2月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28			

3月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

8:00～22:00(20:00以降2Fのみ)
 9:00～18:00
 休館日

8:00～22:00(ウォーミングアップ週間(試験の準備期間))
 9:00～18:00(2Fのみ)

上記以外にも臨時休館日を設ける場合があります。開館日程および時間は変更されることがあります。詳細は図書館1階掲示板・館内配布チラシ・図書館ホームページ等でお知らせ致します。

【編集発行】大阪商業大学図書館

大阪商業大学図書館報「ブック村だより」第49号 平成29年9月30日発行

〒577-8505 東大阪市御厨栄町4-1-10

E-mail: lib@oucow.daishodai.ac.jp

TEL: 06-6781-5280 FAX: 06-6781-0089

URL: https://www.lib.daishodai.ac.jp/

QRコードを読み取ると、
図書館ホームページへ
アクセスできます。



ISSN 1346-8928